

(別添資料1)

事業所名		放課後等デイサービス フェローIntech						支援プログラム			作成日		令和7	年	3	月	1	日
法人（事業所）理念		私たちは 一．豊かで自立した人財に成長します 一．仲間として信頼しあい助け合います 一．情報技術を活用するプロ集団となります そして、社会とお客さまへ貢献します。																
支援方針		プログラミングの制作を通して、思考力、問題解決能力、コミュニケーション力を身につけ、成功体験を積み、誰かに認められたり、賞賛されたりすることで子どもたちの自己肯定感や自身に繋がる支援をしていく。小集団活動を通して、お互いに助け合い相手のことを思いやる協調性を育て子どもたちの生きる力を伸ばしていく。																
営業時間		平日 土・祝・長期休暇	10 10	時	00 00	分から	18 16	時	00 00	分まで	送迎実施の有無	あり	なし					
		支 援 内 容																
本人支援	健康・生活	検温・目視・口頭による健康観察を行い、健康を保持しつつ活発な活動参加ができるように支援する。来所時の手洗い・うがいやトイレの後の手洗いの習慣が身につくように声掛けを行う。気になることがあれば、直ぐに保護者に連絡を行い、対応を確認するとともに経過観察を行う。児童本人が安定した生活ができるように、保護者とも連携し、継続的な利用の案内をしていく。																
	運動・感覚	日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や筋力の維持・強化を支援する。IT活動中は正しい姿勢で椅子に座り、パソコンの画面にも適切な距離感で操作することができるように、声掛けを行いながら見守り支援をする。休日には公園活動も行い、体を動かす機会をつくっていく。																
	認知・行動	児童一人ひとりの特性を理解して関わり、事業所内の環境から正しく情報を習得する事で、自分自身で考え行動に繋げられるよう支援していく。人と関わる時の適切な距離感を身につけられるように声掛けを行っていく。プログラミングの制作活動において、わからないことに対して調べたり、誰かを頼ったりなど、解決できる力も育ていく。																
	言語 コミュニケーション	周りや円滑にコミュニケーションを取ることができるように、スタッフは、子どもたちと一緒に話しをする時間をつくっていく。場面に応じて適切な言葉を使うことができるように、SSTなど周りとのコミュニケーションの取り方を考える機会をつくっていく。プログラミングの制作を通じて、子どもたち同士の教え合いの機会をつくり、コミュニケーション力が向上していくように支援していく。																
	人間関係 社会性	事業所のルールを伝え、始まりの会や帰りの会、成果発表会など集団活動に参加ができるように支援を行い社会性を育ていく。プログラミングの制作活動を通して、人と教え合う機会をつくり、他者と関わる楽しさを感じてもらえるように支援していく。																
家族支援		定期的に保護者さんに保護者面談を実施し、ご家庭の様子や困りごと、年齢に応じた進路選択の聞き取りを行い、助言を行っている。								移行支援		進路や移行先の選択について本人や家族への相談援助。移行に向けての準備の支援を行う。家族への情報提供や移行先が決まっている場合、情報の伝達を行い、受け入れ体制づくりへ協力していく。						
地域支援・地域連携		事前に承諾を得た後、学校などと連携し、情報共有を行い、個別支援計画を作成し、環境整備を行います。 地域の公園で活動する時間をつくり、年に1度、地域の方々が参加できる秋祭りを開催しています。								職員の質の向上		虐待防止研修、身体拘束適正化、感染症/自然災害BCP、避難訓練を社内実施中。ケーススタディなど福祉支援に関する社内勉強会の実施や外部研修にも参加している。						
主な行事等		初詣、書き初め、節分、お花見、ハロウィン、秋祭り、クリスマス会、成果発表会、ジュニアプログラミング検定																